

送辞

冬の厳しい寒さも和らぎはじめ、日ごとに日差しの中に春のうらかな陽気を感じられる季節となってきました。校庭の桜のつぼみもこの時を待っていたかのようにふくらみを増し、今まさに暖かな春の訪れを告げようとしています。

このような良き日に、五十一名の卒業生の皆様が晴れて高等学校の全課程を終えられ、ご卒業を迎えられましたことを在校生一同、心からお祝い申し上げます。

希望を胸に、牛深高校へ入学してこられてから早三年、今、先輩方はここでの学校生活をどのように振り返っていらっしやるのでしょうか。多くのかげがえのない仲間との出会いや、その仲間とともに積み重ねてきた数々の経験、そのようなくさんの思い出が、今、先輩方の心に浮かんでいらっしやることでしょうか。もちろん私たちもまた、先輩方と一緒に過ごした一瞬一瞬が鮮明に目の前によみがえり、先輩方への感謝の気持ちと寂しい気持ちでいっぱいです。

私たちが先輩方に初めてお会いしたのは、私たちが入学して間もない対面式の時でした。まだ慣れない高校生活に不安を感じていた私たちを先輩方は優しい笑顔と大きな校歌で温かく迎えてくださいました。あときからずっと先輩方は私たちの模範でした。それを最も強く感じたのは、今年度の体育大会です。行進や団体競技の練習で、先輩方が誰よりも大きな声を出し、必死で練習されている姿を見て、私たちも先輩方のようにならなければいけないと強く感じさせられました。さらに、マスゲームでは、今までの演技に加えて、ハカを取り入れたことで、これまで以上に最高の発表をすることができ、先輩方の団結力と大きな背中を感じさせられました。先輩方とともに過ごしたこの二年間は、とても楽しく私たちを大きく成長させてくれました。

これから先輩方は、進学に就職にと、それぞれの道を進まれます。その道の先にはきっと素晴らしい未来が待っていることですが、いつでも平坦な道が続いているというわけでは無いかもありません。時として、つらいことや悲しいこと、挫折を経験することもあるかもしれません。けれどもそんな時こそ先輩方がこの学校で獲得してこられた仲間との絆を忘れることなく、何事にも立ち向かい、どんな困難をも乗り越えていく力を示して、進んで行かれることを信じています。

私たち在校生は、先輩方がこれまで築いてこられた伝統を受け継ぎ、さらに磨きをかけて、牛深高校をもっと発展させていきます。先輩方もこの母校をいつまでも忘れることなく、それぞれの地から温かく見守って、ご支援くださいますように心からお願い申し上げます。

最後に、先輩方のご健康と、さらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和二年三月一日

在校生代表 中村大悟